

小学校3・4年生～

2021年12月 no.80

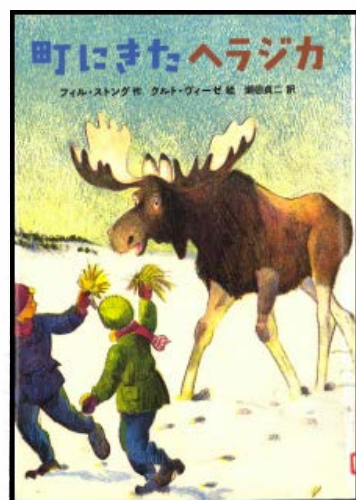
よんでネット* 2021 冬号

発行口茅ヶ崎市立図書館／協力口茅ヶ崎図書館子どもの本の会

「町にきたヘラジカ」

フィル・ストング作 クルト・ヴィーゼ絵 瀬田貞二訳

ある冬の日、10歳^{さい}の男の子イバールのすむ北の町に、はらぺこのヘラジカがやってきました。うまやでおいしい草にありつけたので、ヘラジカは町を出ていこうとしません。町の人々も、むりにおいだいはしませんでした。イバールはヘラジカとすっかりなかよくなって、「ボーン! ブォーン!」とヘラジカ語^ごで話^{はなし}ができるようになったのですが…。



徳間書店〔933ス〕

「クモのアナンシ」 ジャマイカのむかしはなし

フィリップ・M.シャーロック再話 マーシャ・ブラウン絵 小宮 由訳

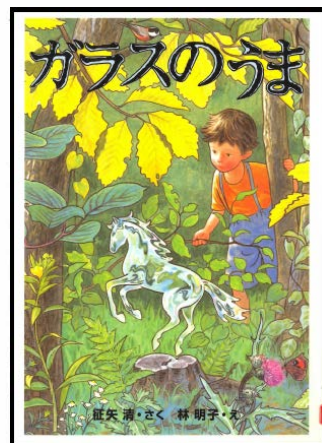


岩波書店〔933シ〕

アナンシは、ときどき人間のすがたになったり、クモになったりしますが、とにかくずるがしこいのです。ある時アナンシは、トラにたのみごとをしました。トラは、「へびを生けどりにしてつれてきたら、ねがいをかなえてやる」といいました。アナンシは知恵^{ちえ}をつかって、まんまとへびをつかまえます。アナンシがかつやくするお話がいっぱいはいっています。

「ガラスのうま」 ^{そや} 征矢 清・さく 林 明子・え

すぐりは小さな男の子。ある日 すぐりは、ガラスのうまとあそびたくて、高いたなからおろそうとしました。うまはたなからおちて、足をおってしまいました。おれた足をテープでとめると、うまはそのままにわへ かけ出し、走、て行、てしまいました。すぐりは うまを おいかけ、ふしぎなガラスの ^{せ かい} 世界へ入、ていきます。



偕成社〔913〕

「お正月が やってくる」 秋山 とも子 作・絵



東京でくらしている なおこさん ^{いっか} 一家の、^{ねんまつ} 年末年始をのぞいてみよう。12月の中ごろ、浅草の『がさいち』へお正月かざりのざいりょうを、^{あさくさ} 買いに行きます。しめ縄を ^{なわ} 作、て、^{しょうてんがい} 商店街で売、るの ^{かじまつ} です。門松の組み立ても ^{しごと} します。その ^{しごと} 仕事があわ、たら、家のおおそうじに ^{おせち} おせち作り。1月2日には もうひとつ、町の人たちと ^{だいじ} やる大事な仕事があります。それは…。

ポプラ社〔E・絵本のコーナー〕

だんだんできてくる「^{はし}橋」 ④ 鹿島建設株式会社/監修 山田 和明/絵

海でへだてられた町と町との間に ^{はし} 橋をかけよう。
^{はしづく} 橋作りはまず、海の中に2つの大きな ^{どう} とうをたてることから ^{どうろ} はじまる。その ^{どう} とうを中心に人や車が ^{はし} 通、る道路を左右 同、じ長、さで、同、じ時、間を ^{はし} かけ、て ^{はし} 作、り、つ、づ、け、やがて ^{はし} りく ^{はし} へと ^{はし} つ、な、が、つ、て、い、く。大、き、な ^{はし} 橋が ^{はし} だ、ん、だ、ん ^{はし} でき、て、く、る ^{はし} よ、う、す、を、同、じ、と、こ、ろ、か、ら ^{はし} 見、つ、づ、け、て、み、よ、う。



「だんだんできてくる」シリーズは全4巻 フレール館〔517〕